

令和 2 年 6 月 24 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04636

研究課題名(和文) 保育士の専門性を活性化するキャリア・パスの研究

研究課題名(英文) A career-path implementation study on child-care providers

研究代表者

大森 弘子(OHMORI, Hiroko)

佛教大学・公私立大学の部局等・非常勤講師

研究者番号：90445974

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、キャリア・パスに関わる保育士の専門性を明らかにし、得られた知見から、保育士の専門性を活性化するための支援プログラムを開発することである。本研究で対象としているのは、子どもの認知能力を育む保育士である。保育士への支援プログラムを試行した結果、次の3点が明らかになった。1) 保育士は、振り返りによって過去の成功経験を想起し、効力感を高める手立てに気付き、有効な技能を得た。2) 保育者の専門性及び支援プログラムを介した保育者の力量形成の過程を提示することができた。3) 保育士が自らの専門性を向上させるキャリア・パスに関する保育者養成の強化と洗練の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保育とは、子どもたち一人一人の命を預かり、命の歩みを最善の利益を持って支える営みであるため、保育士には高い専門性の習得が求められている。保育士の専門性の習得のため、看護師では標準化されている「キャリア・パス」を見習うことが必要である。

看護師の専門性の研究と比較して、保育士は実践的論証が少なく、理論的仮説に留まっている。そこで、本研究では、キャリア・パスに関する保育士の専門性を明らかにし、保育士の専門性を活性化する支援プログラムを開発し試行した。開発した支援プログラムを保育現場で応用することに学術的社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this research was to clarify the career-path of child-care providers, and to develop a support program to actively increase the knowledge of child-care providers. The focus of this research was the child-care providers who seek to increase the cognitive ability of children.

After a support program for child-care providers was created and implemented, the following three points became clear: (1) child-care providers remembered past successful experiences, and noted the means by which they increased their skills and effectiveness; (2) it was possible to study the specialization process of child-care providers and how a support program increased the ability of child-care providers; (3) and the necessity was seen for refining the education and career-path of child-care providers to improve their specializations.

研究分野：教育学

キーワード：保育士 キャリア・パス 専門性 支援プログラム 現職教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 文部科学省委託調査「家庭教育の活性化支援等に関する特別調査研究(2008年度)」は、約8割の保護者が家庭の教育力の低下を感じていると報告している。子育て家庭が孤立する傾向も強まり、家庭が抱える問題も年々深刻化している。この問題に対応するため、親子の最も身近な専門家である保育士による質の高い幼児教育を受けることは、子どもの人生を豊かにする極めて効果的な方法である。また、子どもの認知能力を育むためには、保育士が学び続けて保護者のお手本となることが求められている。しかしながら、保護者の保育士への役割期待に焦点を当て、その特徴を実証的に分析した研究はこれまでほとんどない。

(2) 看護師の5段階モデル「初心者から熟練者へのエキスパートモデル(Benner, 1984)」が提示されて以来、米国看護師の専門性の研究は飛躍的に進んできた。初心者のうちは全てが重要に見える情報の集まりが、レベルが上がるにつれて状況の一つの全体像としてとらえるようになる。さらに、状況を外から眺めるのではなく、積極的に関わりを持つようになるという。米国ではキャリア・パスの標準化を図り、看護師の標準的なレベルが高まった実践的論証がある(Benner, 2015)。一方、全国保育士会(2012)がキャリア・パスを作成したが、標準化された研修制度や研究は見当たらず、本研究はその先駆けの実践的論証に位置する。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、保護者が求める保育士への役割期待、保育士のキャリア・パスと保育士の専門性の関係、保育士のキャリア・パスと子どもの認知能力育成との関連、保育士の専門性を活性化させる支援プログラムの開発である。そのため、2010年度より継続して実践されている現職保育士への保育実践講座のデータ、及び保護者への質問紙調査を活用するものである。開発した支援プログラムは、現職保育士を対象に試行し、保育現場に還元していく。

(2) 支援プログラムの目的は、保育士が専門的な知識・技能をもって学び続けることができることとする。そのため、支援プログラムによる現職教育における効果を明らかにする。具体的には、近畿圏内の保育園において、保育士の専門性に関する現職保育士への面接調査を行う。得られた知見は、支援プログラム開発に援用する。また、保育士の専門性を高め、子どもの認知能力向上に繋がる道筋を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 保育所(7園)に子どもを預けている保護者を対象とし、(保護者の属性や状況、保育者への役割期待等を問う)自記式調査用紙及び封筒等を準備し、後述の分析に必要な全ての質問項目に回答のあった保護者305名を分析対象とした。

調査時期は、2013年5月から2013年7月であった。

(2) 対象の実験群は、近畿圏私立保育所(4園)で働く現職保育士20名であった。実験群に対して、支援プログラム実施前・研修後・実施後(研修から1か月後)・追跡(研修から2か月後)の計4回の質問紙調査を実施した。また、統制群は、支援プログラムに参加していない近畿圏私立保育所(4園)で働く現職保育士20名であった。研修の実施時期に合わせ、統制群に対して、支援プログラム実施前・実施後・追跡の計3回の質問紙調査を実施した。

実験群及び統制群の調査時期はともに、2017年8月から2017年12月であった。

4. 研究成果

(1) 保育士への役割期待による保護者の類型として、5つのクラスタが見出された。すなわち、保護者への役割期待の低さを特徴とする3群(社会低群、やや低群、全低群)及び役割期待の高さを特徴とする2群(やや高群、全高群)である。ニーズとの適合性が高い支援ほど有用性が高いというCohen & McKay(1984)の知見が示唆しているように、保育士への役割期待と提供される子育て支援との適合性は極めて重要である。

(2) 保育士の専門性や力量形成の手立てについては、未だ標準化されたものはない。看護などの他領域では、コンプリメント(褒め、認める言葉掛け)やリフレクション(振り返り深く考え直すこと)等を取り入れた支援プログラムが開発されているが、幼児教育・保育の領域では、あまり見当たらない。保育士の専門性を高めるような、実証的な裏付けを持つプログラムの開発が待たれることが分かった。

(3) 開発した支援プログラムに参加した保育士は、効力感の高低によって2類型(上昇・維持群、急上昇・下降群)に分類することができた。効力感による保育士の特徴をクラスタ分析により縮約し、典型的な類型を同定できたことで、保育士の特徴を捉える一つの手立てを得たと言える。また、3つの群(上昇・維持群、急上昇・下降群、統制群)との比較により、実施前に効力感が低い保育士(急上昇・下降群)は、支援プログラムへの参加により、著しい効果が

現れることが示された。支援プログラムには、保育士への役割期待を理解するための学びの資料（図1）を含んでいるため、実施前に保護者を理解できていると言う自信を持ってない保育士（急上昇・下降群）ほど、支援プログラムから学び、高い効果に結び付いていることが示唆された。

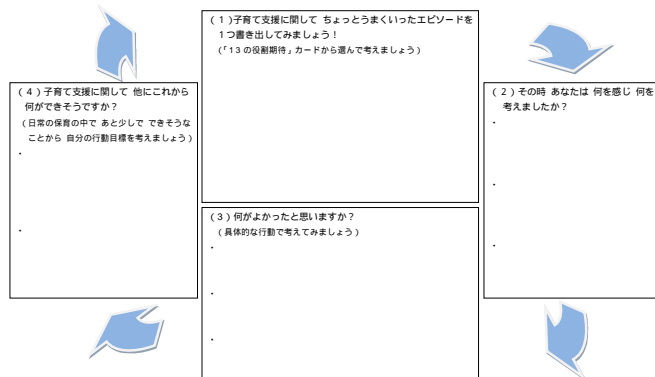


図1 支援プログラムの学びの資料

(4) 支援プログラムによる効果の現れる時期が異なることが見出された。その時期は、実施後が効力感（急上昇・下降群）及び理解度（両群）、追跡が効力感（上昇・維持群）保育の充実度（両群）、遂行への自信（両群）及び自己評価（両群）であることが明らかになった。これは、一つに実施後に効力感が高い保育士ほど、保育を行う自信があるため、困難事例に対しても肯定的な態度で立ち向かい、追跡で保育の充実度、及び自己評価の上昇が示されたのではないかと推察できる。また、効果的な時期が分かるということは、支援プログラムに保育者の力量形成にとって効果的な時期への配慮を組み入れられ、幼児教育・保育への貢献も可能になる。

(5) 保育士の力量の要素とは、役割期待の内容（「連携と個別支援」「家庭への援助・相談」「社会への発信・継承」）である。保育士は、保護者の立場に立って力量の要素を理解しながら、保護者に働きかける。その時、支援プログラムは、先ず保育士のリフレクションに刺激を与える。その刺激は「できそうだ」と思える行動目標を設定することに繋がる。保育士は、保育実践を、リフレクション及び目標設定とともに、螺旋連続的に繰り返していく。この繰り返しのによって、保育士の力量の要素は、役割期待の内容が質の高い保育者の専門性（「連携」「保護者理解」「発信・継承」）に成長し、その過程で保育士の力量形成がなされていくと考えられる（図2）。

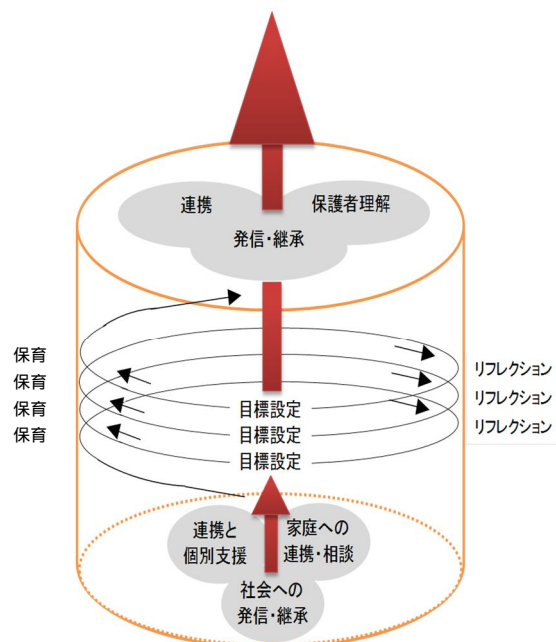


図2 支援プログラムを介した保育士の力量形成の過程

地域における共生社会を築くことが難しい現代において、保育者に求められる専門性は、「発信・継承」に含まれる内容のように、地域社会が本来持っていた子育て機能の補完的な側面も求められていると言えよう。

(6) 保育士養成においても、保育士志望学生が自律的に自ら力量形成の道筋を歩み始めることができるように支援する必要がある。この場合は、追試研究も含めて検討を加え、実証的な知見を積み重ねていき、本研究を保育士養成に寄与できるように応用・発展させることが重要であると考えられる。

<文献>

大森 弘子、育児不安を抱える保護者が示す保育者への役割期待、応用教育心理学研究、第33巻第2号、2017、15 - 26
 大森 弘子、子育て支援を促す保育者支援プログラムの開発、家庭教育研究、第23号、2018、13 - 24
 大森 弘子、高橋 敏之、西山 修、育児不安を抱く保護者を支える保育者の専門性と課題、教育実践学論集、第19号、2018、97 - 109
 大森 弘子、子育て支援を促進する保育者の専門性と力量形成、兵庫教育大学博士論文、315号、2019、1 - 186

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 大森弘子	4. 巻 第315号
2. 論文標題 子育て支援を促進する保育者の専門性と力量形成	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（博士論文）	6. 最初と最後の頁 1-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大森弘子・高橋敏之・西山修	4. 巻 第19号
2. 論文標題 育児不安を抱く保護者を支える保育者の専門性と課題 育児不安と子育て支援に関わる先行研究の概観から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育実践学論集	6. 最初と最後の頁 97-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大森弘子	4. 巻 第23号
2. 論文標題 子育て支援を促す保育者支援プログラムの開発	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 家庭教育研究	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大森弘子・高橋敏之・西山修	4. 巻 第19号
2. 論文標題 育児不安を抱く保護者を支える保育者の専門性と課題 育児不安と子育て支援に関わる先行研究の概観から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育実践学論集	6. 最初と最後の頁 97-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大森弘子	4. 巻 第34号
2. 論文標題 育児不安を抱える保護者が示す保育者への役割期待	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 応用教育心理学研究	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 大森弘子
2. 発表標題 子育て支援を促す保育者支援プログラムの開発
3. 学会等名 日本家庭教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ohmori, H., Asato, W., Nishiyama, O., Mizoguchi, S. & Osaki, C.
2. 発表標題 The specialization of child-care providers in child-rearing in children's homes as determined from child-development students
3. 学会等名 OMEP(世界幼児教育・保育機構)アジア・太平洋地域大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----